

# 東アジア文化都市及び 第10回日中韓文化大臣会合について

平成30年9月19日



文化庁 長官官房 国際課

# 東アジア文化都市

## 経緯

2012年の第4回日中韓文化大臣会合での合意に基づき開始。

## 内容

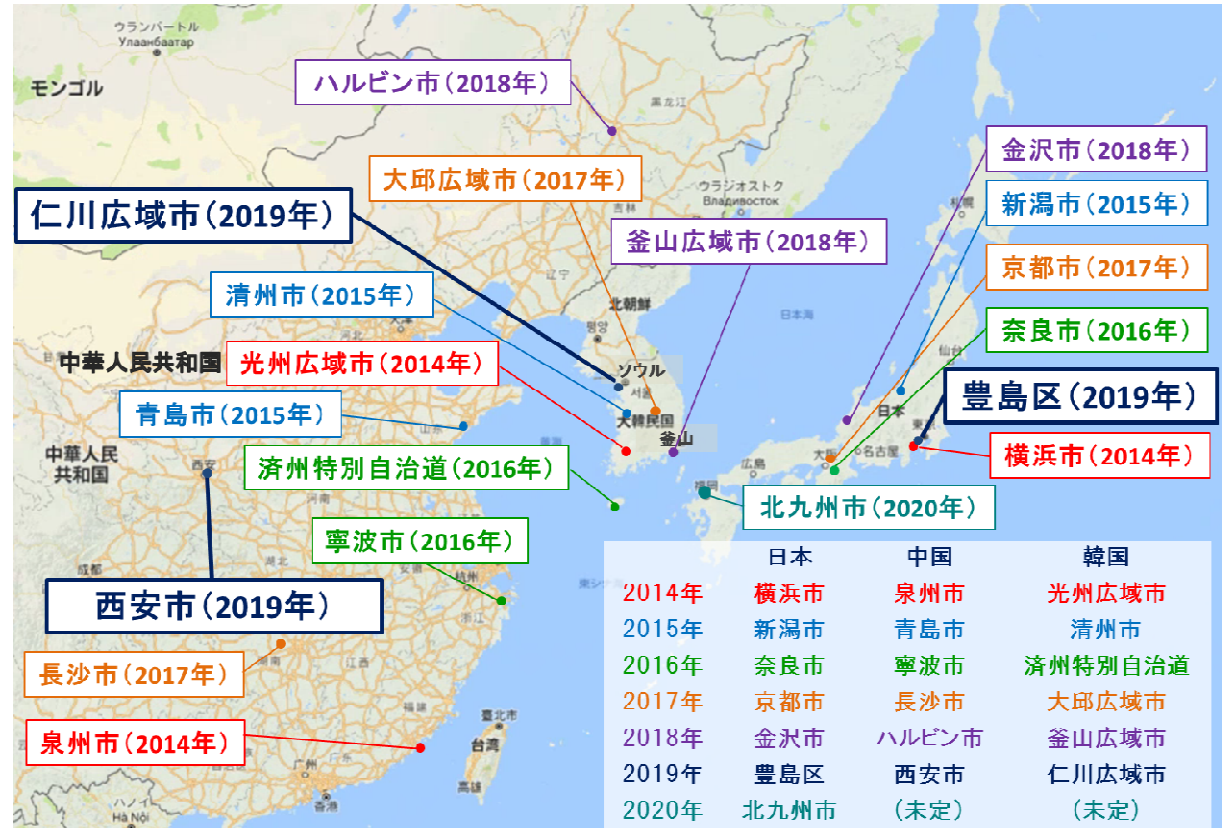
3か国から選定された都市が、都市間交流を含む文化芸術事業を集中的に実施。

## 活動例

開会／閉会イベント、文化芸術関連事業、青少年交流等。

## 効果

- ・東アジア域内の相互理解・連帯感の形成の促進
- ・東アジアの多様な文化の国際発信力の強化
- ・都市の文化芸術・クリエイティブ産業・観光振興と継続的な発展



## ◎2019年の予定

人口面積	豊島区	西安市	仁川広域市
	約29万人 約13km <sup>2</sup>	約880万人 約10,108km <sup>2</sup>	約300万人 約1,029km <sup>2</sup>

## <日本側都市の事業実施状況>

横浜市 (2014年)	新潟市 (2015年)	奈良市 (2016年)	京都市 (2017年)	金沢市 (2018年)
✓ 100事業を実施 ✓ 来場者約280万人	✓ 295事業を実施 ✓ 来場者約357万人	✓ 112事業を実施 ✓ 来場者約127万人	✓ 129事業を実施 ✓ 来場者約50万人	✓ 9~11月コア期間 ✓ 来場者約50万人見込み

# 東アジア文化都市の取組事例

●2014年7月19日～10月7日開催  
「ヨコハマ砂の彫刻展」(横浜市)



●2016年5月26～29日開催  
「日中韓大学生の書展」(奈良市)



●2017年8月19～10月15日開催  
「アジア回廊ーAsia Corridor」(京都市)



Photo by Takuya Matsumi

●2015年7月27～30日開催  
「青少年交流 in 新潟」  
(新潟市)



●2016年9月3日～10月23日開催  
「古都祝奈良(ことほぐなら)  
～時空を超えたアートの祭典」(奈良市)



●2017年3月19日開催  
「お茶でつながる日本・中国・韓国  
ー合同茶会」(京都市)





# 東アジア文化都市の取組一覧

	日本		中国		韓国	
2014年	横浜市	砂像彫刻家による「ヨコハマ砂の彫刻展」をはじめ、3か国の伝統音楽・舞台芸術の公演や、学生の相互派遣等100の事業を実施。 (期間中の来場者数: 約281万人)	チュエンチョウ 泉州市	209点(日本39点、中国150点、韓国20点)の書道作品を展示する「日中韓書画連展」や世界各国の物産が展示・販売された「第1回海上シルクロード国際博覧会」を開催。	グァンジュ 光州広域市	音楽による文化交流イベントとして「思い出の7080忠壮(チュンジャン)祭り」への日中芸術団体招待や国際展示会「光州ACE FAIR2014」等を開催。
2015年	新潟市	「水と土の芸術祭2015」をはじめ、日中韓の学生による合唱交流等の青少年の相互派遣、書道やマンガ等の展示事業を実施。 (期間中の来場者数: 約357万人)	チンタオ 青島市	歌、踊り、劇、楽器演奏、ショーの5部門で技を競い合う「五つの王者」大会や、無形文化遺産の写真展等を開催。	チョンジュ 清州市	清州地域の芸術運動と祭りを結合した「清州民族芸術祭」や、日中韓3か国の共通文化である箸を用いた「箸フェスティバル」を開催。
2016年	奈良市	世界遺産の寺社を活用した現代アートの展示、特別史跡平城宮跡での野外演劇舞台公演、食文化の発信等約100の事業を実施。 (期間中の来場者数: 約127万人)	ニンポー 寧波市	寧波「一都三町」、「音楽の町」をテーマにした舞台芸術公演や写真・書道等の作品展示を開催。	チェジュ 済州特別自治道	「済州国際管楽祭」や「オルムコンサート」等、自然の中で世界の多彩な音楽を体感できる事業を開催。
2017年	京都市	世界遺産・二条城をメイン会場とした、世界で活躍する日中韓のアーティストによる展覧会の開催、京都市交響楽団と東アジア出身の音楽家との共演等を行う他、京都の文化力の発信として、日本の伝統文化・伝統芸能の公演・展示を実施。 (期間中の来場者数: 約50万人)	チャンシャ 長沙市	多数の副葬品が出土した「馬王堆漢墓」等の貴重な文化財を有し、中国最古の最高学府「岳麓書院」を筆頭とした学術研究都市。音楽・演劇・青少年交流等様々な事業を実施。	テグ 大邱広域市	「カラフル大邱フェスティバル」や「日中韓演劇祭」等、近現代の文化芸術や産業を活かしたイベントを実施。
2018年	金沢市	江戸時代には加賀藩の城下町として栄え、新旧の文化が融合共存した都市である。ユネスコクラフト創造都市に指定されており、金沢21世紀工芸祭や「×(かける)プロジェクト」と題した工芸に新しい分野を掛け合わせる事業を展開する予定である。	ハルビン市	国家歴史文化名城に指定されている歴史ある都市。「氷の町、夏の都」や「音楽都市」とも呼ばれ、中国と西洋画折衷した街並みや文化を持つ。ハルビン氷祭りをオープニングの目玉とする予定。	プサン 釜山広域市	首都ソウルに次ぐ韓国第2の都市。ユネスコ映画創造都市に指定されており、映画祭に関連したイベントを予定。その他、街頭公演や茶・酒・服をテーマとして文化交流イベントを実施予定。
2019年	豊島区		シーアン 西安市		インチョン 仁川広域市	
2020年	北九州市(国内都市)		(未定)		(未定)	

# 事業実施における効果

## 過去4年間に実施した「東アジア文化都市」 (横浜市・新潟市・奈良市・京都市)から得られた効果

### 1. 東アジアへの関心の高まり

各事業実施時に行ったアンケートでは、「中国・韓国への興味関心が増加した」と回答

横浜市 72.8% (回答数: 529人)    新潟市 65.0% (回答数: 981人)

奈良市 53.5% (回答数: 4,243人)    京都市 82.0% (回答数: 4,323人)



### 2. 日中韓の交流事業の継続

東アジア文化都市を終えた後も、行政による芸術団の派遣・招へいの他、民間レベルでの交流も継続して行われるようになっている。

(例) 横浜: 光州市立美術館にて、横浜のアート拠点の活動を紹介する展覧会を開催。日韓アーティスト同士の交流を実施。  
光州アートフェスティバルへのアーティスト派遣。

新潟: 本事業を機に開催された中華人民共和国駐新潟総領事館での「春節祭」が継続して開催される。昨年度は参加者の募集に時間がかかった青少年交流事業において、2016年度は定員を超える応募申込みがあった。

奈良: 本事業の成果文書より、3都市間での青少年交流事業(日中韓学生の書道交流等)については継続する予定である。

京都: 大学生の相互派遣といった青少年交流や文化イベントへの文化芸術団体の相互派遣を継続して実施。

### 3. 都市の文化芸術活動の活性化

- ・地元の市民主体の芸術団体が中国・韓国に派遣されるなど、市民による文化の国際発信が活性化した。
- ・市民自身が自都市の持つ文化資源や文化活動を再発見し、芸術団体の活動が活性化した。

# 第10回日中韓文化大臣会合について

2018年8月30日  
於:ハルビン市(中国)

## 1. 経緯

- ・ 2007年の日中首脳会談を契機に、第1回を中国南通市で開催。
- ・ 2018年は、ハルビン市(中国)で開催。

## 2. 成果

「ハルビン行動計画」を採択し、以下の事項について3か国で一致。

- ① 2019年の東アジア文化都市として、日本は豊島区、中国は西安市、韓国は仁川広域市を選定すること
- ② 今後の「東アジア文化都市」事業の充実、対外発信強化に向けた取組を推進すること
- ③ 東京、北京オリンピック・パラリンピックに向けた協力関係を推進すること

＜三大臣による署名文書披露＞





# 第10回 日中韓文化大臣会合「ハルビン行動計画」(概要)

## 1. 序文

- ・歴代の会合の精神を維持・進展させ、3カ国間の実質的な協力を深化し、ハルビン行動計画を共に進めることを認識。

## 2. 「東アジア文化都市」ブランド発展の共同推進

- ・2019年の東アジア文化都市として、日本は豊島区、中国は西安市、韓国は仁川広域市を選定。
- ・「東アジア文化都市」のロゴマークを作成。「東アジア文化都市」についてウェブサイトの構築やアーカイブの収集等に向けた支援を行う。
- ・東アジア文化都市有識者会議等を高く評価。「東アジア文化都市ブランドの向上」に関して議論を継続、専門家の参画を要請。
- ・東アジア文化都市関連事業を効果的に推進するため、事務局を各国に設置。

## 3. 3カ国間の文化芸術機関の実質的な協力への支援と強化

- ・3カ国の国立博物館間で構築された仕組みの協力関係を確認。その他の文化芸術機関における交流や協力への助言、推進を更に強化。

## 4. 3カ国間の文化とオリンピック及び文化と観光の融合的発展の推進

- ・平昌オリンピックにおける日中韓の共同文化プログラムを称賛し、2020年東京オリパラ及び2022年北京冬季オリパラにおいて「日中韓共同文化プログラム」を推進することの研究、検討を進める。
- ・文化と観光の融合的な発展は時代の潮流。文化と観光の融合を通して年の文化特性の一層の保護と発展等に取り組む。

## 5. その他分野における実質的協力の深化への支援

- ・文化遺産の保護と活用に関する交流と協力を支援。
- ・アジア太平洋地域無形文化遺産カテゴリー2センター等の活用により、無形文化遺産の保護を推進するため、交流と協力を一層強化する支援を継続。
- ・正規品・正規版コンテンツの流通促進と、著作権保護の強化のため参加国の協力・交流を引き続き推進。

## 6. 日中韓の協力のための展望

- ・日中韓芸術祭、日中韓文化芸術教育フォーラム、日中韓学生アニメーション共同制作等事業をはじめとした青少年交流及びその他これまでの文化大臣会合の成果の認識、引き続きの取組を奨励。

## 7. その他

- ・2019年に韓国において、「第11回日中韓文化大臣会合」を開催。